

〔萬葉集十〕雜歌詠花

花咲而實者不成登裳長氣所念鴨山振之花、

〔萬葉集十九〕從京師贈來歌一首
山吹之花執持而都禮毛奈久可禮爾之妹乎之努比都流可毛、

右四月五日從留女之女郎所送也

詠山振花歌一首并短歌

宇都世美波戀乎繁美登春麻氣氏念繁波引攀而折毛不折毛每見情奈疑牟等繁山之谿敵爾生流、
山振乎屋戶爾引植而朝露爾仁保敝流花乎每見念者不止戀志繁母江家

反歌

山吹乎屋戶爾植氐波見其等爾念者不止戀己曾益禮、

〔後拾遺和歌集雜十九〕小倉の家にすみ侍けるころ雨のふりける日みのかる人の侍りければ山ぶ
きの技をくりてとらせてはべりけりこゝろも得でまかりすぎて又の日山吹のこゝろも
えざりしよしいひにおこせて侍けりる返事にいひつかはしける、

中務卿兼明親王

な、へ八重花はさけども山ぶきのみのひとつになきぞかなしき

〔擁書漫筆四〕いにしへより山吹は實なきものとせしにこの二十年ばかりほどは諸國に實の
れるがおほしとてこのごろも小谷鳩谷がもとより押花にしておこせたり西蕃にも群芳譜
果部卷之一に棣棠移也似白楊江東呼爲夫移一名郁李一名鬱梅一名雀梅一名車下李其花反
而後合凡木之花先合而後開惟此花先開而後合花正白亦或赤花萼上承下覆有親愛之義故以
喻兄弟周公所爲賦常棣也子如櫻桃六月熟可食仁可入藥○申など見えて群芳譜に花正白或